

衆議院議員 城内実先生に聞く！

郵政民営化の過ち 歴史が証明
国家、国民のため信念を貫く

聞き手 (社) 通信研究会事務局長 島崎忠宏

— このたびはご当選おめでとうございます。

先生の四年間の血と汗が有権者の皆さんに誠意をもって伝えられたことと併せて、郵政国会のとき、自民党の中にあつて最初に郵政民営化法案に青票（反対票）を入れた大変勇気ある信念に基づいた政治家であるということが有権者の皆さんに浸透し、今回約十三万票を得て、自民党候補者にダブルスコアという圧倒的な大差をつけて勝ち上がられました。そこで、四年前の郵政選挙からこのたびの選挙を振り返ってご感想をお聞かせいただけます

でしょうか。

城内先生 四年前の郵政選挙は小泉旋風、今回は政権交代を争点に掲げた民主党の風が吹いた。ただ、わが静岡七区だけは民主党の風はほとんど吹いていない。また自民党候補者の応援に小泉元首相も応援に来られたが、一切、小泉旋風は吹かず、終盤、大変ありがたいことに城内旋風が吹き、自民党候補者とは約七万五千票差、民主党候補者とは約六万六千票差になった。この四年間を振り返ってみる

と悔しさや厳しさよりも、支援者の温かさ、道行く人の励まし、人と人とのつながりの大切さを落選したことにより実感することができた。

やはり前回の小泉劇場選挙の反省で、どんな逆風があつても勝てるような選挙態勢にしようとして、四年間地道に活動を行ってきたことが今回の結果につながつたと思う。無所属だから政党交付金も一円も入ってこない。政見放送もできないし、ポスターや選挙ハガキ等の枚数の制限もある。資金面をはじめ選挙戦における様々なハンデ、それこそ三重苦、四重苦のハンデを乗り越え、強力な組織を作ろうとの思いで選挙に臨んできた。目指すは日本一の後援会ということで、「城内後援会」を選挙区の各地区につくって、地道にコツコツ選挙区を歩いて回った。

もちろん一人で選挙は戦えない。郵政研、郵政OBの方々等をはじめ、多くの方々のご努力、ご支援で強力な後援会、組織づくりができた。選挙戦の終盤には全国から百名近いボランティアの方が集結し、緑色の「信念」



1965年生まれ。89年東京大学教養学部を卒業、外務省に入省。90年在ドイツ日本国大使館に勤務。2003年衆議院議員初当選（無所属）。農林水産委員会委員、環境委員会委員、郵政民営化特別委員会委員などを歴任。05年の第44回衆院選にて748票差で惜敗。09年8月第45回衆院選に無所属で出馬し当選。現在、法務委員会委員、文部科学委員会委員。

Tシャツを着て町を歩いたり、ビールを配ったりしてもらった。地元の皆さんも大いに盛り上がり上げていただいた。おかげさまで大変素晴らしい結果となったが、私にとっては新たなスタートであり、今回の選挙をそれこそ正念場と位置付けて後援会の組織を更に強化していきたい。

——有権者の反応も段々と変化してきたのではないのでしょうか。

城内先生 四年前の郵政選挙の直後は、郵政民営化法案に造反した悪者のようなレッテルを

貼られた。私は抵抗勢力ではなくレジスタンス、巨悪と戦う正義感をもった一人として認識していたのだが、あのような劇場型選挙をやられて非常に冷たい視線を浴びた。逆に刺客の人がヒーローのようにマスコミに取り上げられたりした。

ただ、歴史が必ず証明するとの信念のもとに、一回もブレず、媚びず、投げ出さないうで小泉・竹中構造改革路線の弊害、そして郵政民営化の闇、郵政民営化法は国民にとってとんでもない法律であるということを主張し続けた。福岡政行先生（白鴎大学教授）、関岡英之先生（ノンフィクション作家）、森田実先生（政治評論家）にも応援に来ていただき、郵政民営化問題の本質について明快にお話をしていただいた。そういう方々の声が選挙区によく浸透していった。メディアと闘うにはやはり自分たちで声を上げていくことが大事だということを学んだ。

——郵政民営化法案の採決のとき、安倍幹事長代理の説得を振り切って青票（反対票）を投じ

られました。あの時、棄権も考えられたそうですが。

城内先生 私は外務省出身で、郵政民営化の中身をよく知らなかったころは民営化大賛成論者だった。ただ郵政民営化のさまざまな問題について、いろいろな会合に参加し勉強していく中で、郵政民営化は日本の国益を損ない、日本国民の負担を増すような中身であることが分かり反対の立場になった。

郵政国会のときは当時の小泉首相を支える清和会のメンバーだったので、相当な圧力がかかっていた。今思い出すと法案採決の前の三日間は圧力から逃れるように身を隠していた。

法案採決の時、安倍幹事長代理は、私の意志が固いのはご存知だったので賛成しろとは言わなかった。私の身の危険を案じて、棄権か欠席しろとおっしゃった。今思うとあの時賛成して、今回自民党の公認候補として出馬していたらどうなっていただろう。何か運命的なものを感じる。

——小泉内閣が主導した構造改革、その本丸と言われた郵政民営化とはあらためてどのようなものだったのでしょうか。

城内先生 小泉・竹中構造改革路線、そして改革の本丸であると言っていた郵政民営化が、いわばまやかしかったということに国民が気づいたから、今回の選挙で自民党があれだけの大敗をした。小泉内閣以降の政権が小泉・竹中構造改革路線をきちんと総括せず、うやむやにした。麻生前首相の「郵政民営化には実は反対だった」という発言もあった。小泉・竹中構造改革路線をしつかりと総括し、本音ベースで国民に過ちを認めなかったことが大敗した原因の一つだと見ている。

郵政民営化とはどういうことなのか、私なりに定義づけをした。「郵政民営化とは、日本のすべての国民の幸せのために使うべき貴重な金融資本等を外国のハゲタカ投資家およびその手先の日本人にただ同然で払い下げること、使わせること」。「官から民へ」というもつともらしいスローガンがあったが、その実態

は「公から私へ」、まさに私物化するということだった。「かんぽの宿」問題でも私物化が露呈した。本来国民から集めたお金は国民の幸せのために、たとえば教育、福祉、医療、環境などに活用すべきなのだ。ところが、国民共有の財産である「かんぽの宿」を（小泉構造改革を推進する）自分たちの仲間の系列の不動産会社にただ同然で払い下げようとした。まさに私の定義どおりである。

いまだに構造改革の信者みたいな人がいて、いま日本の景気がわるいのは小泉・竹中構造改革路線が道半ばだから結果が出ていないと主張する。非科学的で何の根拠もなく、しかもここまで国民があらゆる格差問題をはじめとして不幸になっているのに、そんなことをまだ言っている。そういう人たちが有識者として大手を振って歩いているのだ。

——国民のためのより良い郵政事業とはどのようなものでしょうか。

城内先生 利用者の方々あつての郵政事業であ

り、利用者の視点に立って利便性を高めていくことが第一だ。現在、全国津々浦々に郵便局はあるが、簡易局はどんどん閉鎖されている。私が二十年暮らしたドイツでは郵政民営化は失敗した。一つは民営化によってかなりの郵便局が閉鎖に追い込まれたこと。もう一つは公的精神を忘れてひたすら営利を追求していったことだ。あまりにも経済合理性、利益追求に突っ走った結果、ドイツポストのツムヴィンケル会長が脱税容疑で逮捕されるという象徴的な事件も起こった。ドイツポストバンクも売却されたようだ。

日本も民営分社化によって公的精神がどんどん薄れてくると大変なことになる。もちろん、民間の良い部分は採り入れていかななくてはいいけない。要は郵政事業の公共サービスとしての機能と同時に、民間活力も採り入れてより良いサービスを提供していくことだ。

そういう意味では、国営ではなく、公社の形態が良いのではないかと思っている。郵政事業は株主あるいは経営者のものではなくて、国民共有の財産ととらえるべきだ。もち

ろん、民業圧迫をしないように配慮しなければならぬ。民間の都銀も地銀も信金もあつて、同時に郵便貯金、簡易保険もある。それぞれの役割、機能を明確にすみ分けして国民、利用者のために選択肢を増やすことが大事だ。

もう一つは、郵政事業に携わっている社員の皆さんが気持ちよく、誇りをもって働けるような環境づくりをしていくこと。会社が分社化されているので郵便局が蝟集みたいになってしまった。分社化の弊害が多すぎる。

一方、民営化によつて、郵便局がこれまで使用していた携帯電話会社から別会社に一斉に切り替わったりする。利害関係者が儲かるような仕組みになっていないか、徹底的にチェックをする必要がある。私は「リフォーム(改革)詐欺」「カイカク利権」という言葉を使っているが、現場の人の仕事よりも経営トップの人たちの利権、「カイカク利権」のほうが大事だと考えているのではないかという気がしてならない。

——現在の与党は郵政見直しに向けて、次期臨時国会に郵政株式売却凍結法案、郵政改革基本法案を提出しますが、これらには賛成されるのでしょうか。

城内先生 われわれ平沼グループ、「国益と国民の生活を守る会」(国守の会)は、郵政株式売却凍結法案、郵政改革基本法案に当然賛成する。ただ、中身をきちんと精査する必要がある。経営形態にしても公社に戻すのか、民営のままなのかは議論が分かれるところだし、株式保有割合も国が二分の一なのか、三分の二なのかといった議論もある。

郵政民営化見直しに関しては民主党、社民党、国民新党の与党と共同歩調を取るつもりだ。他の部分は是々非々で対応する。

——最後に全国の郵便局長さんにひと言お願いいたします。

城内先生 郵便局長さんやOBの方々は、地域活動の役職に就いて地域をまとめたり、地域

行事に参加して汗を流したり、地域を支えておられる。地域住民から慕われている名士である。そういう皆様から応援していただき、私にとって素晴らしい財産になった。皆様が真剣に応援してください。おかげで今回の結果となったし、逆に言うと自民党がこれだけ大敗したのは今まで応援してくれた郵便局長さん、地域の名士の方々に、恩を仇で返すようなことをしたからだと思っている。

これから私がやることは、地域のため、日本のために働いてきた郵政関係の皆様を再び取り戻せるように活動していくこと。全国の郵便局長の皆様をはじめ、OB、夫人会の皆様にこの場をお借りして心から感謝を申し上げ、今度こそその思いでお役に立てるようがんばりたい。

〈参考〉◇静岡七区 主な候補者の得票と得票率
城内実候補(無所属)

十二万九千三百七十六票(五二・一%)
民主党候補 六万三千百十六票(二五・四%)
自民党候補 五万四千百二十八票(二一・八%)